



Givery, Inc.

HANDS-ON DAY 2 ・ 2026 年 6 月 版

ハンズオンガイド Day 2

仕上げて、説明資料まで完成

提供	Givery 株式会社
研修日程	Day 1: 2026 年 5 月 26 日 (火) / Day 2: 2026 年 6 月 2 日 (火)
時間	13:00 ~ 17:00 (4 時間)
題材	CSV 可視化ダッシュボード (仕上げ)

Day 2 のタイムテーブルと、6 本の Exercise (仕上げ・発表・理解度確認) の進め方をまとめています。

SECTION 01

Day 2 の俯瞰

項目	内容
日時	2026年6月2日(火) 13:00-17:00
テーマ	基礎版を完成版に仕上げ、ベンダー向け説明資料まで作って発表する
持ち物	Day 1 で進めた output/ フォルダの中身一式、ノート PC
配布フォルダ	Day 1 と同じ epsn-handson_受講者用 フォルダを継続使用

SECTION 02

タイムテーブル

時間	セッション	形式
13:00-13:10 [10min]	Day 1 振り返り+Day 2 ゴール共有	講義
13:10-14:10 [60min]	Exercise 2: グラフ種別切替・軸選択の追加	ハンズオン
14:10-14:20 [10min]	休憩	-
14:20-15:20 [60min]	Exercise 3: 基本統計量・スタイル仕上げ	ハンズオン
15:20-15:50 [30min]	Exercise 4: ベンダー向け説明資料の作成	ハンズオン
15:50-16:00 [10min]	休憩	-
16:00-16:40 [40min]	Exercise 5: ミニ発表会	発表+対話
16:40-17:00 [20min]	Exercise 6: 理解度確認テスト	テスト

SECTION 03

Exercise 1: Day 1 振り返り + Day 2 計画 (10 min)

ゴール

Day 1 の到達点を整理し、Day 2 で何を埋めるかを定める。

やること

1. `starter/dashboard.html` をブラウザで開いて、`samples/sales-by-region.csv` をアップロード
2. 棒グラフが出るかを確認
3. 出ない場合: 講師にすぐ声をかける。`completed/dashboard.html` を見ながら、Codex に立て直し依頼
4. 動いている場合: 今日埋める 3 機能の順番を決める
 - グラフ種別の切替 (棒・折れ線・円)
 - X 軸 / Y 軸のカラム選択 UI
 - 基本統計量の表

SECTION 04

Exercise 2: グラフ種別切替・軸選択の追加 (60 min)

ゴール

棒グラフ 1 種類だった基礎版に、種別切替 (棒・折れ線・円) と X 軸 / Y 軸のカラム選択 UI を追加する。

終了条件

- グラフ上部にセレクトボックスが 3 つ並ぶ (種別 / ラベル列 / データ列)
- セレクトを切り替えるとグラフが即座に再描画される
- ラベル列にはテキスト系カラム、データ列には数値カラムが選択肢として並ぶ
- 円グラフを選んだ時にもグラフが壊れない

プロンプト例 (種別切替)

現在のダッシュボードに、グラフ種別を切り替えるセレクトボックスを追加してください。

- 棒グラフ / 折れ線グラフ / 円グラフの 3 種類
- セレクトを変更したら即座に再描画
- 既存の CSV 読み込み機能は変更しない
- 既存の Chart.js インスタンスは destroy してから新規作成する

プロンプト例 (軸選択)

X 軸 (ラベル列) と Y 軸 (データ列) を選ぶセレクトを追加してください。

- ラベル列はテキスト系カラムを先頭に、なければ全カラム
- データ列は数値カラムのみ
- どちらを変更してもグラフが再描画される

つまずいたら

- 「セレクトを変えても再描画されない」→ `addEventListener` が忘れられている。Codex に「Change イベントで `renderChart` を呼び出すバインドを確認してください」
- 「円グラフだけ表示が崩れる」→ Chart.js では円グラフに `scales` 設定が不要。Codex に「pie の場合は `scales` を空に」と指示
- 「数値カラムの判定が雑」→ `parseFloat` で `NaN` でない、かつ空文字でない、を両方チェックさせる

観察ポイント

機能追加は **小さい単位** で依頼するほど、後戻りが減ります。「全部一気にやって」より「種別切替だけ追加→動作確認→次へ」のリズムを身につけてください。

SECTION 05

Exercise 3: 基本統計量・スタイル仕上げ (60 min)

ゴール

数値カラムに対して基本統計量(平均・中央値・最大・最小・標準偏差)を表示し、画面全体のスタイルを整える。

終了条件

- 数値カラムごとに統計量がテーブル表示される
- 数値は日本の桁区切り(カンマ区切り)でフォーマットされる
- 全体の見た目が白背景・ネイビーアクセントで統一されている
- モバイル幅(768px以下)で1カラムに崩れる

プロンプト例(統計量)

数値カラムに対して基本統計量を表示するテーブルを追加してください。

- 列:カラム名 / 平均 / 中央値 / 最大 / 最小 / 標準偏差
- 計算は JavaScript 内で。標準偏差は母分散ベース(n で割る)で計算
- 数値は日本のロケール(toLocaleString('ja-JP'))でカンマ区切り表示
- 表示位置はグラフの下

プロンプト例(スタイル仕上げ)

全体のスタイルを以下に整えてください。

- 白背景、ネイビーアクセント(#1e3461)
- 余白を整え、各セクションの境界を薄いボーダーで区切る
- フォント:'Helvetica Neue', Arial, 'Hiragino Kaku Gothic ProN', sans-serif
- レスポンシブ:モバイル幅 768px 以下では各セクションが 1 カラムに
- 絵文字は使わない

観察ポイント

ここまで来ると、Codex への依頼が **自然な日本語の業務指示** に近づいているはずです。「コードを書く」ではなく「望む状態を伝える」スキルが、研修後の実務で最も効きます。

SECTION 06

Exercise 4:ベンダー向け説明資料の作成(30 min)

ゴール

完成したダッシュボードを材料に、外部ベンダーに本番開発を発注するための説明資料を作る。

終了条件

- `output/vendor_brief.md` に以下が埋まっている
 - 案件の目的
 - プロトタイプ的位置づけ(含まれるもの／含まれないもの)
 - 機能要件
 - 非機能要件
 - やらないこと
 - ベンダーへの質問リスト5個以上
- 質問リストが「動くプロトタイプを見た上で初めて出せる質問」になっている

プロンプト例

このプロトタイプ(HTML 添付)と要件整理シートを材料に、外部ベンダーへの発注説明資料を作成してください。

【要件整理シート】

[output/requirements.md の中身を貼る]

【画面仕様】

[output/screen_spec.md の中身を貼る]

【プロトタイプの位置づけ】

動くたたき台。デザインや動きは確定ではなく、機能要件のすり合わせの土台。

【出力形式】

- 案件の目的(1~2 行)
- プロトタイプの位置づけ
- 機能要件(プロトタイプから読み取れるもの)
- 非機能要件(同時利用ユーザー数・レスポンス・CSV サイズ・ブラウザサポート)
- やらないこと
- ベンダーへの質問リスト 5~8 個

【質問リストの方針】

- 「このプロトタイプを見た上で初めて出せる質問」のみ
- 「全部実装してください」のような曖昧質問は除外
- 「〇〇の場合の実装パターンは？」のように具体的な分岐を聞く

観察ポイント

「動くプロトタイプを見せた発注」と「言葉だけの発注」では、ベンダーから返ってくる質問の質が変わります。この資料は、発注精度を1段階上げる装置です。

SECTION 07

Exercise 5: ミニ発表会 (40 min)

ゴール

自分の作ったダッシュボードを5〜7分で他の受講者に説明する。

発表構成

1. テーマ (30 秒) どんな業務場면을想定したか
2. 要件整理のキモ (1 分) 一番悩んだジョブ／ペインは何か
3. 画面デモ (2〜3 分) CSV を読み込んでグラフを切り替えてみせる
4. ベンダーへの質問リストの抜粋 (30 秒) 一番効きそうな質問を1つ
5. 明日からどう使うか (30 秒) 具体的な案件名・場面で語る

発表時の注意

- スライドは作らない(時間をもたない)
- 画面共有+口頭で十分
- 「動くこと」を必ず見せる
- 抽象的な感想(学びになった)は禁止。具体行動で語る

フィードバックする側のルール

- 「良かった点」と「明日もっと尖らせるなら?」を1つずつ
- 称賛だけで終わらせない
- 否定形ではなく提案形で(「ダメ」→「○○すると更に良さそう」)

SECTION 08

Exercise 6:理解度確認テスト(20 min)

形式

- GoogleForm 10 問選択式
- 合格目安 6 割
- 合計 20 分以内に提出

出題範囲

- 要件 3 層(業務/利用/機能)の区別
- ジョブ・ペインの言語化基準
- AI へのプロンプト設計(役割・背景・出力形式)
- ベンダーレビューの 5 軸
- 単一 HTML ダッシュボードの構成要素(PapaParse / Chart.js / 基本統計量)

受け方

1. 講師から GoogleForm の URL が共有される
2. 20 分以内に回答を完了
3. 自分の点数は当日中に画面で確認できる

SECTION 09

2 日間を終えた後

- ご自身の業務で AI を使う時、まず「要件を言語化」「具体的に指示」「動かす」「レビューする」のループを意識してください
- 詰まったら、研修中のメモと配布資料を見直してください
- ベンダー説明資料は実案件でぜひ流用してください

文書末尾。



AIプロトタイピング研修 (エプソン販売株式会社様向け)

© Givery, Inc. All Rights Reserved.